

2020/02

株式会社LOGOSキャピタルパートナーズ
代表 伊藤 武

2月25日に市場特報「新型コロナウイルスが世界株式市場を直撃」の題名で発信した後も、株式市場は下げ止まる気配が見えません。2月19日にアメリカ主要株式指数のS&P500種は3386.15ドル、NASDAQ株価指数は9817.18ドルの史上最高値を更新したばかりで、月末までにそれぞれ12.8%と12.7%下落しました。ダウ工業株価平均も14.0%下落しています。株価指数が10%強下落すると株価は調整局面に突入したと定義され、2018年の秋以降2度目の調整局面状況となりました。定義上のベアマーケット（下げ相場）は株価が20%強下げる局面です。当面の大きな課題は果たして市場がベアマーケットに突入するかです。もしそうなれば2008年の金融危機以来の市場下落となります。その判断は景気動向次第で、株価は通常6～9か月先の経済実態を予見するとの観察が一般的な見解です。前回のレポートで新型コロナウイルス感染が更に世界的に拡大すれば不況到来の確率を高め、対応できる経済政策の効果にも疑問が生じることが同様に高まります。米連銀は昨年3度の政策金利の下げを実施し、当面は現状維持となっていました。早急に更なる緩和を実施することとなるでしょう。そしてトランプ大統領は財政赤字等は一切意に介せず、大統領選挙に向けて景気浮揚を最優先することは必至です。既に述べてきたことですが、中国を先頭に主要国政府も同様に景気浮揚は喫緊の最優先対策となるでしょう。それがニューノーマル体制で、これまでの世界金融市場の安定に安住し続けてきた所以です。しかし、各国の対応はウイルス拡散予防の緊急体制となり、その結果世界的に経済活動が抑制されれば、経済対策の効果の遅延は余儀なくされます。主要国の景気対策が積極的に展開されることは最早疑問の余地はありません。そうであっても、上記の観測通り、今年の半ば以降景気が不況に転じる見通しとなれば、現時点での調整だけの株価は更に下落する確率を高めます。株式市場の調整局面は予見の範疇にありましたが、ベアマーケットの予測は新たな展開です。ベアマーケットが回避できるのであれば、現状は一部投資を検討する局面となるでしょう。投資資金の余裕が十分であれば、そろそろ一部投下を視野に入れるべきでしょう。そうであっても今後の投資姿勢は慎重を要します。各ポートフォリオは例外なく2月に下落を余儀なくされました。その内容を精査し、今後の対策については追ってお伝えいたします。

本資料は、株式会社LOGOSキャピタルパートナーズ（以下「当社」という）が情報の提供のみを目的として作成したものです。当社が提供する情報は十分信頼に足る

ものと信じておりますが、それを保証するものではありません。ここに掲げる過去の実績は必ずしも将来の動向を示唆するものでなく、実際の収益を確約するものではありません。記載された見解等の内容は全て作成時点でのものであり、今後予告なく変更されることがあります。この資料及びここに掲載された情報等の権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部若しくは一部を複製し、又その他の方法で配布することはご遠慮ください。